

京阪神東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会
東雲会京阪神支部会報●第15号
ホームページ <http://okada.sub.jp/higashi/>
連絡先 岡田俊一(山脈12回)
神戸市垂水区神和台2-2-9

鳥取弁で話し笑い食べる

豪華に平成23年度総会開催

23年度は以前開催して評判のよかつた神戸コンチエルト号で実施しました。2クルーズを使い前半は雨でしたが歓談の時間、二度目には雨も上がり甲板でクルージングを楽しみました。八村輝夫会長、谷口 肇副会長、小倉健一副校長、県関西本部の米田裕子鳥取県関西本部長、榎本武利(21回)岩美町長、網谷竹敏(21回)岩美町関西事務所長等々のご参加を頂き100名余の参加者が集いました。

今年はホテルコムス大阪で開催

今年度の当番幹事をさせていただくことになりました、29回の田村です。

鳥取東高校を卒業して以来、進学、就職と、鳥取を離れて35年が経ちました。帰省する以外は、鳥取とは縁遠くなっていた頃、鳥取在住の同級生から京阪神の東高の同窓会への誘いがあり、とりあえず、日程を空けて欲

しいとのことで、出席の承諾をしました。

おおよそ20年ぶりで同窓に会える懐かしさの反面、もしかしたら?という不安もありました。

そこで、幹事を引き受けたことになった次第ですが、京阪神在住の同期約40名に電話等で協力を呼びかけたところ、7月に開催された総会へ向けての理事会には、8名の方々が集まり、心強い限りです。卒業以来初めての出会いという方がほとんどですが、理事会の後も総会企画で話が弾みました。

ともあれ、引き受けた以上、微力ながら、会員の皆様に喜んでいただける総会となるよう、精一杯努めさせていただきたいと思っています。

ちょうど、50歳を超えて、そろそろ定年退職まで数年の年齢になり、故郷の鳥取や同窓が少しずつ懐かしく感じてくる年代なのかなとも思います。そうした故郷への想いが伝わり、参加いただく皆様に鳥取を共感していただける集いとなれば幸甚です。

(山脈29回・当番幹事 田村真二)



母校創立90周年の記念式典挙行

6月23日（土）午前9時から創立90周年記念式典が行われました。当日の式典や記念誌などをもとに母校の歩みを振り返ってみます。

初代校長の林重浩氏は、東京音楽学校と東京物理学校を卒業した後、青森を振り出しに島根、山形で教師を歴任。当時、鳥取中学で生徒から様々な要求が起き同盟休校をする事件が起きていました。米子中学の校長だった林校長は、立て直しを頼まれ鳥取中学の校長に就任。わずか2年で鳥取中学は元の静かな学問に励む学校に戻ります。

中学への進学率が高まる中で、新しい中学の創設の機運が高まります。林氏は、徳田平市氏に寄付を要請。二中は、徳田氏個人の寄付（当時の米価を基準に換算すると現在の金額で12億円）で建設されました。この篤志家の意志を自らの教育方針として具現化したのが初代林重浩校長でした。

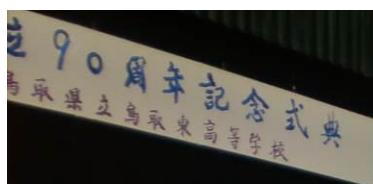
このため県立学校としては異色で、むしろ私立に近い独特の雰囲気が見られ「新しい学校」が誕生します。鳥取二中の気風にはどこか開放的、自由主義的な合理主義的な思想や、態度を尊重し育成する気風が養われ、その流れは、戦後の鳥取東高校へも脈々と受け継がれていきます。



初代校長 林 重浩氏



創立功労者 徳田 平市氏



●90周年記念行事(2012/6/23)

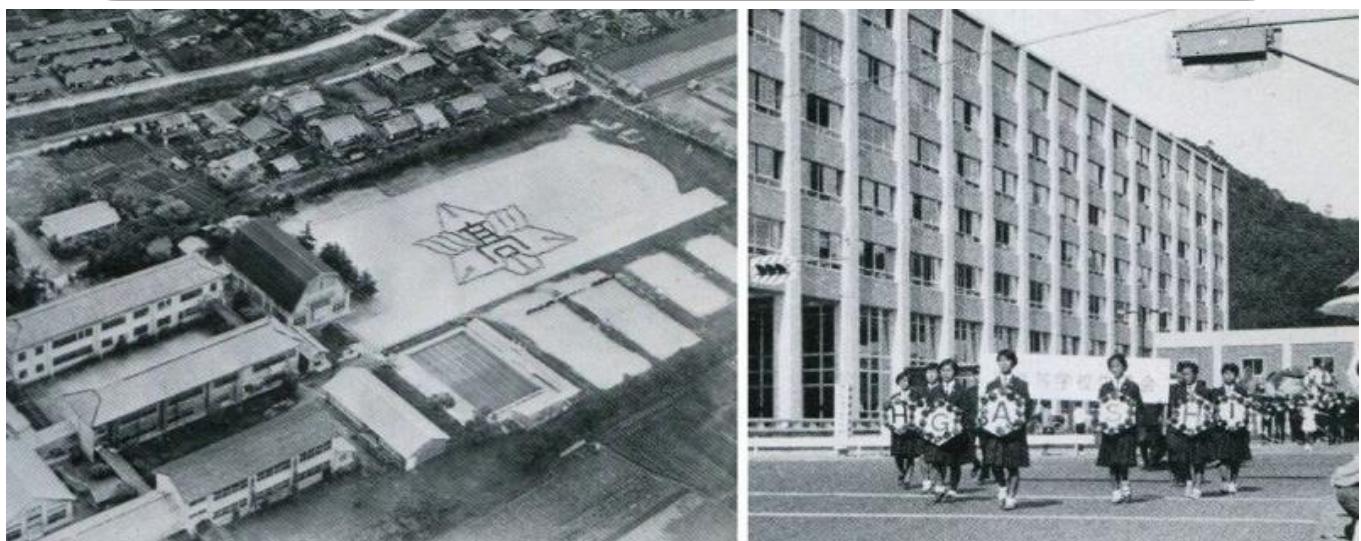
- 1 記念講演 「ジャンケンに強い人」 講師 浜崎 慎治氏（平成7年卒） TYOプロダクションズ CMディレクター
- 2 記念演技・記念演奏 <演技> 書道部パフォーマンス <演奏> 邦楽部演奏、吹奏楽部演奏 トロンボーン共演 田中 洋実氏（平成17年卒）
- 3 芸術作品展示 期間6月18日～7月1日 しののめ館およびコモニホールで実施されました。





【鳥取東校創立90周年記念所蔵芸術作品展。70点収納。左から尾崎悌之助、長澤卓重、柴山抱海の各氏の作品。】

- 大正11年6月20日 鳥取県立第二中学校設立許可。徳田平市氏校地校舎寄付
- 大正12年4月5日 開校・入学式、入学生104名
- 大正15年11月1日 講堂兼体操場落成（マンサード型銅板葺屋根）
- 昭和3年3月6日 第1回卒業式（71名）
- 昭和3年9月18日 校歌発表（作詞 本橋平一郎 作曲 吉田保太）
- 昭和7年3月30日 大坂毎日新聞社、全国中等学校第9回選抜野球大会出場（甲子園）
- 昭和23年4月1日 学制改革により鳥取県立鳥取第二高等学校となる。
- 昭和24年4月1日 鳥取工業高校、鳥取実業高校を統合し鳥取県立鳥取東高等学校となる
- 昭和25年2月7日 校歌制定（作詞 藤原登喜夫 作曲 田中妙子）
- 昭和27年12月20日 徳田会館・家庭科教室落成
- 昭和30年5月9日 新校旗制定（徳田隆一氏寄贈）
- 昭和33年10月19日 鳥取二中、鳥取東高同窓会が合併し東雲会発足
- 昭和34年4月1日 専攻科が設置される（公立高校としては全国最初）
- 昭和47年5月31日 第2グランド完成
- 昭和63年4月9日 東雲橋竣工式
- 平成元年12月27日 県立図書館より林重浩先生頌徳碑を本校憩いの森に移設
- 平成7年3月2日 志学の道（市道立川町18号線）開通
- 平成10年4月1日 2学期制の導入
- 平成11年6月23日 東浜臨海教育記念碑建立



【人文字（昭和31年）。最後の学校祭市中行進（昭和42年）】

本ページ編集にあたり、“『規律ある自由』の原点～初代校長 林重浩先生と校祖徳田氏～”（本部同窓会副会長 谷口 肇氏講演）、“50周年記念誌”、“80周年記念誌”を参考にしました。また写真提供など本部同窓会事務局の協力を得ました。（文責 岡田俊一）

返信はがき(平成23年度)の 近況報告から

同窓生OB諸兄姉の消息をお知らせします。本紙も15号になりました。皆さんの“元気のもと”を返信はがきの近況でお寄せ下さい。

柏葉

★昨年4月、神戸海洋博物館に私の油絵100号4点永久収蔵され、それを記念して「海の風景20点」の2ヶ月間の企画展示。「海の日」には国土交通省から表彰を受けたりして、実に有意義な平成21年だったと感謝しております。(18/長澤卓重)★平成22年10月、柏葉19回クラス会鳥取で挙行しました。卒業生146名生存者61名内出席者16名、大変淋しくなりましたが、いつまでも元気でありたいものです。(19/河上義隆)★6月に木津川市周辺に在住する東雲会会員8名と同伴でご婦人2名で懇親会を開きました。会員の山脈28回の呉羽真弓さんは、4月の市会議員選挙で再度トップ当選をされました。(22/藤田忠雄)

山脈

★福島県いわき市で、震災と原発事故にもめげずに頑張っている義姉(81才)に勇気をもらっています。脱原発を急ぐべきだと思います。(2/金谷充清)★10月中旬、鳥取大丸で恒例81回目の個展があり1週間ほど、帰省のため、そのしわよせが11月に及びますので今回はご勘弁下さい。(4/中村美登)★喜寿

と古希の夫婦旅、今年4月は安曇野、5月は山形の山村を羽黒山麓まで山菜狩り、10月は佐久平を中心に八ヶ岳山麓のもみじを。11月中旬には木曽のかいだ高原から飯綱・戸隠高原まで奥信濃の晩秋を歩く予定です。(5/松下泰治)★まもなく喜寿。馬齢を重ねて元気に過ごしております。ウォーキングが続けられるだけ幸せに思っている日々です。(5/森田明弘)★9月に山6の同窓会が関西ありました。鳥取の方に会うと本当に懐かしくて楽しいですね。

(6/平野良子)★3年毎の山6同期会、開催支部担当で雄琴温泉に50名結集、各部屋パノラマ景色露天風呂付、会席料理、翌日琵琶湖水郷巡りで満喫。



後期高齢何するものぞ、東高時代に戻り意気揚々、アツツアンもアバサンも肩を組み、声高らかに校歌齊唱し、甲子園の事前特訓とした次第。(6/久永浩)★第1回神戸マラソン実行委員会会長として多忙な毎日です。19日は大会前日で残念ながら出席できません(8/植月正章)★9月に倉吉梨記念館へ梨を買いに行きました。新品種の新甘泉はとても甘くて美味しいです。又買いに行きます。(8/下村美津江)★私の中の鳥取は、中学、高校と異性に対する感情を初めて経験した時期であり場所である。また、よく学びよく遊びよき友人に恵まれた。これからも思い出として残したいと思っている。(8/橋本恭輔)★週に2~3回プールに通って体を鍛えております。しかし、週に1~2回風邪をひいております。頭痛のみですが。(9/垣本信夫)★週5~6回スポーツクラブへ通い毎日元気に年相応に体に注意しながら楽しく過ごしています。(10/滝和男)★鈴木亮介様より案内状をもらい嬉しく思っています。しかし、残念ながら小生古希となり身体もコキコキとなりました。5分ほど歩いただけでアウトです。皆様のご健康を祈ります。(11/井上義孝)★日々穏やかに過ごしています。久しぶりに展覧会(フェルメール展)に行きました。ステロイド剤3,5錠は続いておりますが一病息災かなと思っています。(11/澤田和子)★ふるさと鳥取は私の中では、いわば家族の拡

大図生きてる限りよりそっていける存在だと思います。山陰、砂丘、二十世紀梨に反応し、都道府県マラソンでは「鳥取、頑張れ」、選挙のたびに1票の重みを槍玉に挙げられるときは心が痛みます。(11/盛田和子)★ありがとうございます。古希にしてなお、9条を守る、原発なくす、橋下(大阪維新の会)フアッショとめる・・・と元気にはいます。(11/安場敏)★古希の年齢となるも引き続き老人施設の業務を続行中。(11/萬知行)★本年8月12日鳥取の対翠閣で同窓会、出席者は51名、遠くは長崎、横浜から出席があり、おおいにもりあがりました。同じ、鳥取で、高校で、学年であったからこそこのような出会いがあったことに感謝しながらこれらの日々を過ごす覚悟です。

(13/真田譲)★工事現場の監督をしています。(14/大橋正行)★鳥取へ帰ると懐かしい。山の緑せせらぎのある川、そして日本一の砂丘と松、こんな美しい県に何故、観光客が少ないのだろうか。中国九寒溝は完成までに何度も日本を訪れ参考にした。鳥取

たかがマラソン されどマラソン

橋本巖(山脈10回) 第4回

今回は、ランニングと健康の関係について述べてみたい。

健康に生きるための基本要素

人が生きていく上で必要な基本要素は、食事、睡眠、運動である。これらを適度に維持すれば、健康に生きていける。だが、これは簡単なようで、なかなか難しい。食事は、偏食や夜遅い食事が続けばメタボ予備軍だ。男性の独身者や単身赴任者にとっては、バランスのとれた食事は難しい。睡眠も現代人は十分ではない。朝の通勤電車では、座っている人の多くが居眠りをしている。睡眠不足の現象だ。

だが、一番難しいのは運動だろう。「時間がない」「仕事に疲れて運動する気が起こらない」「どんな運動をすればよいか分からない」等ないないづくしの人がほとんどだ。厚生労働省は、手っ取り早い運動としてウォーキングやランニングを奨励している。そして、ランニングに関しては週35分、つまり1日5分でよいという。ちょっと少なすぎると思うのだが、やらないよりましだろう。

運動で大腸がん減少

厚生労働省研究班の調査で、スポーツで身体を動かす習慣のある男性は、そうでない人に比べ大腸がんのリスクが約30%低下することが分かった。研究班は1995年と98年、全国10地域の40~60歳の男女約6万5千人を対象に運動量を調査。その後、02年まで追跡した結果、運動量の多い男性の場合少ないグループよりも大腸がんにかかる割合は3割少なく、結腸がんに限ると4割以上少ないことが分かった。一方、女性の場合には差異はみられなかったそうだ。

運動が健康のために良いという証明だが、ランニングに関してはもっとすごい研究が発表されている。

ランナーは長生き?

研究成果を発表したのは、米スタンフォード大学。1984年から05年までの21年間、ランナー538人と非ランナー423人を比較調査した。その結果は、図のとおりであるが、生存率は、ランナーが85%であつ



たのに対し非ランナーのそれは66%だった（調査対象者の当初の平均年齢は、ランナー58歳、非ランナー62歳）。

ランナーと非ランナーの死因比較

ランナー	死因	非ランナー
29(5.4)	心疾患	43(10.2)
30(5.6)	がん	41(9.7)
6(1.1)	神経疾患	14(3.3)
1(0.2)	感染症	15(3.5)
11(2.0)	その他	28(6.6)
4(0.7)	不明	3(0.7)
81(15.0)	合計	144(34.0)

すべての疾患において、ランナーの死亡率は低い。ランニングが心・血管系の疾病予防に効果的であることはこれまで指摘されていた。日本に先駆けて、アメリカでマラソンブームが起こった理由はここにあった。

注目されるのは、神経疾患と感染症に対するランナーの優位性だ。神経疾患についてはよく解らないが、感染症についていえば、ランニングによって免疫力が高まり、細菌に対する抵抗力が生まれることから当然のこととして想定される。加えて、一般的にランナーは喫煙しない。楽しくそして速く走るうと思えば、進んで禁煙を選択する。この調査の当初でも、喫煙率は非ランナーの9.5%に対しランナーのそれは1.9%だった。その比率は5対1だが、それぞれの死因結果に影響を及ぼしているであろうことは想像できる。

素人的に今ひとつ考えられるのは、ランナーの場合疾病を早期に発見するということだ。多くのランナーは、ランニング日誌をつける。何km走ったとか体調はどうだったか等いろいろだが、体重は必ず項目に入っている。走らない日でも体重測定は怠らない。つまり、日頃体調チェックを行い、異変があれば走り続けるために受診するから病気の早期発見につながるのだ。

研究結果は、いろいろ前提が異なったりしていて絶対ではないが、参考にはなるだろう。

研究進むランニングの効果

筆者が走り始めた頃、「60歳過ぎたらランニングは身体に良くない。活性酸素が発生し老化を早める」という医学者の意見を聞いて戸惑つたことを覚えている。たしかにそのような説があるが、他方「ランニングはナチュラルキラー細胞を活性化させる」、とがんに罹患しにくい効果に注目する意見もある。

体験的に、ランニングは肩こり、便秘、胃腸病に

効果があるが、医学的にはいろいろ研究されている。大脳生理学者の久保田競さんは『ランニングで頭が良くなる』という本を出している。70歳過ぎの爺さんには遅すぎる話だが、氏は脳の活性化に着目して鬱病や認知症の治療にランニング

を提唱している。認知症の人を走らせるのは大変だと思うのだが、鬱に対する効果があることはかなり研究されている。

もちろん、ランニングに限らずすべての運動は健康に効果があるのだろうが、ゴルフと健康とか野球と鬱の関係などの研究はない。何時でもどこでも簡単にできるランニングが、恰好の材料なのだろう。

だが、マラソンは・・・

しかし、自分が走っていながら言うのは変だが、マラソンだけを見れば健康に良いとは必ずしもいえない。42.195kmを走り抜くにはかなり体力を消耗する。体重が減少し、走後は免疫力が低下して風邪を引きやすいという人もある。ただ、これは記録や順位を狙う人のことで、筆者のようにのんびり走るランナーは、途中でよく食べるので逆に体重が増える。とはいえ、マラソンは、完走すれば達成感は大きいが、樂とはいえない。重要なのは、マラソンを走るまでの過程にある。月1回のゴルフや野球は、練習しなくともできる。ところがマラソンは、そうはいかない。日頃のトレーニング、少なくとも月に150km以上走り込まなければ納得のいく完走はできない。要は、スタートラインに立つまでのランニングが良いのである。

75歳でのフル完走をめざす

走り始めて20年を超えた。記憶力は低下し髪の毛は薄くなつたが、薬を飲むことは希だ。これもマラソンのお陰だと思っている。

最近新しい体重計を買ったのだが、体脂肪率や骨量などさまざまな数値が現れる。結果、体内年齢は、なんと実年齢より25歳も若い46歳とはじき出される。これは、きっと「喜ばせてやろう」という体重計メーカーの陰謀に違いないのだが、その陰謀にあえて乗つかつて、せめて75歳まではフルマラソンに挑戦しようと思っている。

【写真=2012年鳥取マラソン(中間点)】



京阪神東雲 回顧25年

野田 幸生(山脈4回)

当番幹事制



昭和61年転勤で大阪に帰ってきました。それまでは東京東雲会の総会（会場は丸の内の日本興業俱楽部で、参加者は山脈中心）に出席していたこともあって、京阪神東雲会の総会に出席してみました。会場は梅田の中華料理屋の屋根裏と間違いかねないような2階の畳の部屋で、参加者は柏葉の方30名弱、山脈8名（女性は8回の宇野田さん1人）でした。

從来から山脈の出席者が少ないことが問題になっていた様子ですが、たまたま私が山脈中最年長であったこともあり、先輩方から山脈のメンバーを増やすように厳命されました。そこで次年度は從来の世話役であった柏11回の上田さん、宇野田さんに教わりながら、私の同期生を中心に電話をしたり、案内状に添え書きしたりして、出席を呼びかけました。その結果はじめて山脈の出席者が柏葉を上回ることができました。

その後も継続して発展していくためには、新しい世話役を中心にして、その知り合いの輪を広げていくことだと考え、私の下の5回の方に無理やり幹事を頼み込み、次の年は6回というように当番幹事制を定着させてきました。

出席者は100名を超える、ピークは200名近かったと思いますが、漸次盛会になりました。今年の当番幹事は29回の方にお願いしていますので、25年続いていることになります。また会場の選定や会の運営を当番幹事に一任して来たため、会場はリーガロイヤルホテルや大阪都ホテルなどのシティホテル、さらに神戸の観光船コンチェルトの船上など、また出しものとして傘踊り、歌、ゲームなど楽しい会が開催されるようになりました。

当初当番幹事は突然押し付けられたと不平の声も聞かれますが、準備を進めるうちに次第にのめりこみ、その後毎年同期会を開催される契機になるなど結束が強まるのも当番幹事制のメリットだと思って

います。

私はちょうど当番幹事の年齢（52～53歳）が同窓会の適齢期だといつてきました。卒業して35年、定年までにはまだ余裕があるが、子育ても終わり、学校時代や故郷がフトなつかしくなることのある年齢だと思われるからです。総会の出席者を増やすために、現在の当番幹事をメインに10年下の期の方をサブの幹事にしようと試みたことがありますが、42～43歳では同窓会への関心が希薄で、うまく行きませんでした。

会則の制定

当会は昭和26年以来毎年総会が開催されてきた由で、参加者も100名を超すようになりましたが、会則もなく役員の選任や任期もあいまいで、しかも会計報告のない総会である等問題も抱えておりました。

そこで、平成7年に私が会長を引き受けざるを得なくなったとき、会則を制定することにしました。会則と言っても簡素なもので、

- ①総会は11月第3土曜日に開催する。
 - ②会長は総会で決める等役員の選任の方法、任期は2年として再任は妨げない。
 - ③総会で会計報告を行う。
- などで本部同窓会の会則や運営方法にあわせるようにしました。

寄付金会計の新設と会報の発行

年々当番幹事の努力により会が盛会になる中で、できるだけ多くの会員に案内を送るべきとの意見が強く、京阪神在住の全会員（2,300人以上）に案内状を送付してきました。この案内に要する経費（郵送費、印刷費、幹事会経費）を出席者（100名とか120名）の会費で賄うには、出席者の負担が過大になりますのが問題でした。

そこで平成10年より、出席されない方にも1口千円の会費をお願いすることにしました（出席者からは当日の会費に含めて徴収しています）。これは通常の総会に会計と区別して「寄付金会計」とし、管理・報告しています。

また、会費を頂戴するわけですから、会員の皆さんに連絡をしたり、会員の思い出等を掲載したりする冊子（会報）を発行しようということになり、以来、山脈12回の岡田さん（現当会会長）の大変なご努力で立派な会報「京阪神東雲」をお届けして現在にいたっています。

さらに、毎年案内を差し上げても半数以上の方から出欠をふくめて返事がないので、2年づづけて返事

のない方には以後案内をお送りしないことにしています。ただこのようにすると新たに案内する会員数が年々減少することになるという懸念があり、本部の名簿が発行される年に合わせて、6年に1回京阪神在住の全会員に会報を送って案内するルールにしています。

岡田会長から何か書くようにすすめられましたが、当番幹事制をはじめて25年になるのを機会に思い出を残しておくことにして駄文を綴りました。

全会員の皆さん、会長はじめ、役員、当番幹事の方々の協力によって今後の一層京阪神東雲会が発展するように期待しています。(平成24年3月10日)

会費（寄付）ご協力のお願い

本年度も京阪神東雲会運営費として会員の皆様に年次会費（寄付）一口1,000円の出捐をお願いしております。総会に参加される方からは、当日参加費用に含めて会費を頂きます。

この会費が通信費など当会の運営費を支えています。昨今の物価の高騰でデータ管理会社への出費が高騰し過去の準備金も底をつきましたが、データ管理や印刷業者の変更、発送作業を理事会で行うなどの経費削減に伴い財政的には収支バランスがやっと取れて再建のめどが立ちました。

(会長 岡田俊一・会計幹事 横山毅)

郵便振込「口座番号 00940-2-133540

加入者名 京阪神東雲会」

平成23年度の会計報告

平成23年度会計報告		単位円		
費目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金	57,878			
総会会費	784,000			
総会支出		735,000		会場支払
会議費(封入作業含む)		33,516		
総会資料作成費		9,844		印刷他
合計	841,878	778,360	63,518	
寄付金会計	(平成23年4月1日～平成24年3月31日)			
費目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金	86,304			
H23年度寄付金収入	234,590		175件	
東雲会総会当日入金	63,000		63件	
振込用紙印字		700		
H23年度総会案内送料		44,540		
出欠葉書550×@50		27,500		
データ管理費(金井氏)		100,000		
振込料		300		
総会案内会報印刷代		40,042		
運賃送料代		1,360		
H23年度用総会費用補填		0		
会報編集通信費		1,000		
本部総会出席補助		10,000		
合計	383,894	225,442	158,452	

当会を通じ母校と繋がりたい

編集後記

今年、鳥取東高校が創立90周年を迎えました。その歴史を振り返る特集を組みました。資料を読むうちに改めて創立功労者徳田平市翁と初代校長林重浩氏の学校創設への思いが伝わります。

私は昭和33年4月に入学し、36年3月に東高を卒業しました。当時、徳田会館は生徒会の会議や、部活の懇親会、合宿などに使われていました。和室の床の間には、『克己実践』という掛け軸がありました。

当時は、誰がどのような思いで筆をとられたのか深く考えることもありませんでした。徳田平市翁の書によるもので、「己に打ち勝ち志を貫く」という意味になるでしょうか。私にとっては、3年間目にしたこの4文字が“校訓・生徒信条”でした。いつかは、母校の教壇に立ちたいという思いがありながら、途中下車した関西が終の棲家になっています。

思い出の先生で、歴代先輩が卒業時に送った竹の根がついた“指示棒”で問題ができないとカツを入れた数学の早田先生がおられました。その後、母校の教頭をされているとき、東高正門の銅板の校名プレートが、在学中の学校のシンボルでもあったマンサード型銅板葺屋根から抽出したものだとお聞きしました。

今は、京阪神東雲会との関わりを通じて、母校となお縁があることを、改めて嬉しく思います。

この冊子は年に1回会報として、総会案内への返信のあった方々にお届けしています。

鳥取県関西本部の呼びかけで、鳥取県の高校の同窓会の連絡会が毎年開催されていますが、各校ともに、母校への愛着が薄れる世代の台頭と同窓会参加者の高齢化が問題になっています。幸い、当会は当番幹事制度と本部同窓会の応援もあり、県下同窓会の中ではスマーズに支部活動が行われています。

Googleおよびyahooで『京阪神東雲の窓』を検索すると当会ホームページがヒットします。過去の総会の画像や故郷の情報が見られます。年に一度の総会へ出席された方々のみならず、この広報紙とホームページでの交流も大切にしていきたいと思っております。

総会の出欠葉書の下欄に近況欄がございます。その中によろしければ「私の中の鳥取」というテーマで一言感想をお書きください。「近況報告の葉書」で特集を組んでみたいと思います。またホームページにある交流ボードで日頃の思いや生活を書き込んでください。

岡田俊一(ホームページ&広報担当)

E-mail: toshi-o@momo.so-net.ne.jp

本紙への要望や広報紙の寄稿者の推薦をお待ちしています。カットは山崎勝彦氏(山脈12回)。

